

保育活動における幼児の姿

倉橋惣三の幼児に対する環境活動

The appearance of children in childcare activities

○笹谷絵里¹⁾・千田真喜子¹⁾

Eri SASATANI、 Makiko SENDA

¹⁾ 花園大学

Hanazono University

Key words:環境活動, 庭, 倉橋惣三

1. はじめに

現在、日本の幼児教育の重要性が再確認されている。日本の幼児教育は、フレーベルの思想を受け継いだ倉橋惣三により確立されたとされる¹⁾。日本では、1989年の「幼稚園教育要領」改訂²⁾の際、新たに領域「環境」が設立され、環境活動の重要性が見直された。行政においても、「環境」というキーワードに着目され、1971年に環境庁が設立された。2001年には、環境省に格上げされた³⁾。以上を踏まえて、本稿では倉橋惣三の幼児における環境活動を倉橋惣三の幼児教育に対する思想から歴史的観点を中心に概要をまとめて考察する。

2. 倉橋惣三の幼児教育思想

倉橋惣三(1882~1955)は、『日本の幼児教育の父』、『日本のフレーベル』と言われる¹⁾。倉橋は静岡県出身の教育者・児童教育の実践家・児童心理学者である。フレーベルから影響を受け、日本の幼児教育に寄与した人物である。東京帝国大学文科大学哲学科を卒業、同大学院児童心理学を修了した。東京女子高等師範学校(現、お茶の水女子大学)講師、教授を経て、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事を勤めた¹⁾。1935(昭和10)年、東京女子高等師範学校附属幼稚園の保母らとともに、誘導保育案で、日本における初の本格的な保育カリキュラムである「系統的保育案の実際」をまとめた。1948(昭和23)年、倉橋惣三が中心となって「保育要領」を文部省が作成した。これは、今でいう「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の原型となるものである。ただし、倉橋惣三が作成した当時は、法的拘束力なかった。だが、保育者のみならず保護者も対象とするものであった⁵⁾。

3. 「自然」、「環境」に着目した幼稚園創設から保育要領・幼稚園教育要領への流れ

1876年、東京女子師範学校附属幼稚園が日本で初めての幼稚園として創設された⁶⁾。ここでは、当初はフレーベルに習い「遊び」を通しての「学び」が中心であった。1935年、系統的保育案が作成された。倉橋惣三が、東京女子高等師範学校附属幼稚園の保母らとともにまとめた日本初の本格的な保育カリキュラムである¹⁾。1942年、「保育要領」が作成された。これは、「幼稚園

教育要領」「保育所保育指針」の原型であり、倉橋惣三が中心となって文部省が作成したものである。この保育要領の「自然観察」は幼稚園だけでなく保育所や保護者も対象とした、現在の領域(環境)の原型となるものであり、現在の幼児教育での環境活動の基礎となるものであった。

4. まとめ

日本の幼児教育は、時代の流れにより変遷してきた。だが、庭(自然・環境)を大切に考えたフレーベルの思想を受け継いだ倉橋惣三による幼児教育における環境活動は、領域「環境」の中において現代にも受け継がれている。現在では、幼稚園だけでなく保育園やこども園においても、領域「環境」の目標に沿って保育がなされている。現在の全ての幼児(幼稚園児・保育園児・こども園児)が環境活動の対象となった状況は、1942年に倉橋が中心となって作成した、「保育要領」が基盤となり、幼児に自然や環境の大切さを知る環境活動の原型となるものだったといえる。

引用文献

- 1) 荒井洌(1997)『倉橋惣三 保育へのロマン』フレーベル館。
- 2) 荒井洌(2015)「幼児保育の原点に立ち返って : 文部省「保育要領」(一九四八年三月)を読む」『季刊保育問題研究』271:29-52。
- 3) 文部省(1989)『幼稚園教育要領 平成元年』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/1322225.htm20200922)。
- 4) 独立行政法人 環境再生保全機構(2020)『環境庁の発足(1971年)』(https://www.erca.go.jp/yobou/taiki/rekishi/03_06.html20200922)。
- 5) 古橋和夫編(2018)『子どもの教育原理 保育の明日をひらくために』萌文書林。
- 6) お茶の水女子大学附属幼稚園(2020)『沿革』<https://www.fz.ocha.ac.jp/fy/outline/history.html>20200922)